

---

# ALWAYS

アヤ緒

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ALWAYS

### 【Nコード】

N0023A

### 【作者名】

アヤ緒

### 【あらすじ】

新一と蘭のお話。RANSIDEとCONANSIDEがあります。是非両方読んで下さい。

そういえば初めてだった、こんなにコイツを下から見るのは、いつもコイツは隣にいて笑っていて泣いていて怒っていて。

中学に上がるまで・・・　　そういや、中学校を卒業する少し前までたしか俺の方が背丈は確かに低かった。けれどこれほど見下ろされてコイツがひざを曲げないと視線が合わせなくなるなど当然なかった。

けれど今は違う。

今コイツは目の前で泣いているのにその涙を拭ってやることもできない。

いつもそうだ。俺は何もしてやれていない。

ただ今泣いているコイツを『居候のガキ』として泣いている理由を聞いてやるだけだ。

理由なんて最初から解かっている。自分のせいだ。いまこの小さくなってしまったこの胸が異常に苦しいのも。

この体になって一番つらいのは自分の存在をごまかすことでも推理がしにくいことでもなんでもない。

ただ幼馴染の涙が痛い。

いつも一つ一つあの透き通る瞳から零れ落ちる大粒の涙を止めることはいくら事件を食い止めることが出来たとしてもできない。

だったら「もとの姿である俺」なら？  
できるか？

たしかにもとの姿である俺がいたらコイツはなかないけれどそれでもできるのか？「幼馴染」である俺にできるのか？

あの頃は「幼馴染」である関係がものすごく居心地が良く一緒にいて他人から冷やかされたりちやかされたりされるのも嫌じゃな

かった。むしろ好きだった。でも自分がどんな気持ちであつても「幼馴染」という関係から抜け出すことなんて出来やしない。

だからといって幼馴染として俺達が出会ったことを悔やんでいるんじゃない。

そのおかげでいつも俺は一緒にいることができた。  
今、その距離は縮んでいる。

いや、うそだ。縮んでなんかいない。ただ傍にいます  
けでなにもしてないだろ？

嘘、ついてるんだから。

例えばそれがコイツを助けるひとつだけの手段だとしても嘘は嘘だから。

ずっと一緒にいるコイツを俺は騙しているんだから。

「事件で帰れそうにない」？

嘘だ。今俺はコイツのとなりにいる。

「そのうち帰ってやるからよ」？

嘘だ。そんな見込みありはしない。

「ごめん、また事件に動きがでたから切るな！」？

嘘だ。俺はコイツを騙しているだけで今からノコノコと居候として帰るんだ。「ただいま」って無邪気な顔をして。いつもコイツは電話の前で怒っているような泣いているような顔をしていて俺の方を振り返り笑う。

「おかえり」。

もし俺が元に戻ってコイツのところに戻ってきたら今みたいに笑いながらそう

いってくれるのか……。

俺はコイツと一緒にいてわかった。

「コイツは俺と同じ気持ちでいてくれる」。

うれしかった。うれしくてうれしくてしょうがなかった。

飛び跳ねたい気持ちもあった。顔がめちゃくちゃ赤くなった。

けど　　できるか？

「俺もだ」って言ってなにが起きる？

君にいったんじゃないんだって謝られるか？それとも何かいった？とか言つて聞き流されるか。どちらにする元に戻らないと二人の距離は縮められない。

本当に蘭は強いと思っている。

もしコイツが突然いなくなったら？

何日かに一度かかってくる電話は一方的で生死しか確

認できない。

待て、といわれて俺は待つか？

答は・・・NOだ。

探すだろう。隅から隅まで世界中を探す。

なのにコイツは待ってるんだ？

信じてくれるから・・・？

・・・俺は信じてやれるか？もしコイツが突然いなくなって「大丈夫、帰ってくる」といわれてでも居場所が分からなくて不安なのに？

ほんとに強いよ、お前は。

R A N S I D E

今。何してるの？

あの時は・・・別にそんなことも思わなかった。

いつもアイツは隣にいて笑っていて私の事を見てくれていた。

それが「愛情」なのかはわからないけれどただあの目が、あの表情を見ることが出来ればこんな不安になることなんてなかった。

けど　　今は違う。

今どこにいるのか、今何しているのか、今どんな表情しているのか分からない。

何を考えているのか察する事だつてできやしない。

すごく不安になる。すごく胸が苦しくなる。

アイツは簡単に死ぬような人じゃないのはすごく、すごく分かっている。

いつも余裕の顔していた。少なくとも私の目にはそう映ったよ？

頭だつていいし危険は承知のはずだけどそれでも「今傷ついているんじゃないか」「今私のように不安なんじゃないか」。

いつも、いつもいつも。

いつも電話をしてくるのは向こうからで切るのも向こうがいつも先で。

一方すぎだよ、いくらなんでも。

今すぐに帰ってくるはずじゃないのは分かるけどそれでも1秒でも一瞬でも声を聞いていたのに。

いつも私はアイツのことを考えているのにアイツは考えてくれないのかな・・・？

アイツが傍にいた頃、自分は他人より「強い人間」だと思ってた  
少なくとも弱いとは思っていなかった。強くありたいと。

けど今。

いつも隣にいた。「ただの幼馴染」だったはずなのに。  
今こんな・・・弱い。

今、今、今今今。

今あなたはなにをしているの？

今あなたは何を考えているの？

今あなたはどこにいるの？

今あなたの事を考えているのに

今あなたはここにいない。

今。

いつも。

あなたに会いたいと考えている

。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0023a/>

---

ALWAYS

2010年10月13日13時24分発行